

著者紹介（執筆順，＊は編者。①所属，②経歴，③主要業績）

村上雄一（むらかみ ゆういち） [第1章]

- ①福島大学行政政策学類教授
- ②クイーンズランド大学大学院学術博士（Ph.D. in History）
- ③「アレグザンダー・マックス——日豪を越境した領事」『移動と境界——越境者からみるオーストラリア』昭和堂，2023年。
「日本人の夢の跡——ブルーム」『大学的オーストラリアガイド——こだわりの歩き方』昭和堂，2021年。
「日本人移住の歴史(1)——白豪主義期まで」『オーストラリア多文化社会論——移民・難民・先住民族との共生をめざして』法律文化社，2020年。

堤 純（つつみ じゅん） [第2章]

- ①筑波大学生命環境系教授
- ②筑波大学大学院博士課程地球科学研究科中途退学，博士（理学）（筑波大学）
- ③「ギリシャ系移民のセンターとしてのオークレイ——ギリシャ系コミュニティの役割に着目して」『オーストラリア研究』（共著）第35号，2022年。
「オーストラリア・メルボルン急激な人口増加に対応する都市機能の集約」『世界のコンパクトシティ——都市を賢く縮退するしくみと効果』学芸出版社，2019年。
『変貌する現代オーストラリアの都市社会（Contemporary Transformation of Urban Societies in Australia）』筑波大学出版会，2018年。

小暮哲夫（こぐれ てつお） [第3章，コラム4・5]

- ①朝日新聞 GLOBE 副編集長（前シドニー支局長）
- ②東京大学文学部卒業

＊杉田弘也（すぎた ひろや） [第4～8章，コラム1～3]

- ①神奈川大学経営学部教授
- ②フリンダース大学博士課程修了（Ph.D. in Politics）
- ③「オーストラリア政治におけるジェンダー・ギャップークオータによる明暗」『女性の政治参画をどう進めるか』公益財団法人日本学術協力財団，2024年。
「オーストラリア自由党とアイデンティティ政治——2018年8月の首相交代の背景と正当性への影響」『日本比較政治学会年報』第21号，2019年。
“Overlaps between the Executive and the Legislature: the Governor-General's forgotten power”『オーストラリア研究』第32号，2019年。

藤田智子（ふじた ともこ）

[第9章]

- ①九州大学大学院比較社会文化研究院准教授
- ②慶應義塾大学大学院社会学研究科博士課程単位取得退学，博士（社会学）（慶應義塾大学）
- ③「生殖補助医療と家族——その影響と課題」『入門・家族社会学——現代的課題との関わりで』学文社，2024年。
「家族を規制する——オーストラリア・ヴィクトリア州の生殖補助医療法をめぐる議論の事例研究」『保健医療社会学論集』第33巻1号，2022年。
『オーストラリア多文化社会論——移民・難民・先住民との共生をめざして』（共編著）法律文化社，2020年。

花井清人（はない きよひと）

[第10章]

- ①成城大学経済学部教授
- ②オーストラリア国立大学太平洋問題研究大学院博士課程修了（Ph.D. in Economics）
- ③「個人所得税での税額控除を活用した税・移転システム構築の可能性——国際比較のレッスンを通して」『成城大学経済研究』第231号，2021年。
「オーストラリア税制改革の残された課題——財・サービス税改革と政府間財政関係に着目して」『成城大学経済研究』第212号，2016年。
「水平的財政平衡原則の二元的運用——オーストラリア」『地方分権と財政調整制度——改革の国際的潮流』東京大学出版会，2006年。

永野隆行（ながの たかゆき）

[第11章]

- ①獨協大学外国語学部教授
- ②上智大学大学院博士後期課程国際関係論専攻満期退学，博士（国際関係論）（上智大学）
- ③『物語オーストラリアの歴史——イギリス植民地から多民族国家への200年〔新版〕』（共著）中央公論新社，2023年。
『イギリスとアメリカ——世界秩序を築いた四百年』（共編著）勁草書房，2016年。
『オーストラリア入門〔第2版〕』（共編著）東京大学出版会，2007年。

原田容子（はらだ ようこ）

[第12章]

- ①オーストラリア研究者
- ②ウーロンゴン大学博士課程修了（Ph.D. in History & Politics）
- ③「港町アルバニーのアイデンティティ・シフト——最後の捕鯨の町からアンザック発祥の地へ」『サステイナビリティ・サイエンスとオーストラリア研究』オセアニア出版社，2018年。
「西洋とアジアの狭間で——オーストラリアと日本，そして“西洋コンプレックス”」『生存学』第9号，2016年。
"Hegemony, Japan, and the Victor's Memory of War," *Hegemony: Studies in Consensus and Coercion*, Routledge, 2008.

片岡真輝（かたおか まさき）

[第13章]

①東京外国語大学世界言語社会教育センター講師

②カンタベリー大学博士課程修了（Ph.D. in Pacific Studies）

③「フィジーにおける多人種主義概念の批判的検証——被害者記憶を用いた記憶論的分析」
『太平洋諸島研究』第11号，2024年。

"Reconceptualisation of Girit Memory: Fiji's Response to the Re-evaluation of the Colonial Past." *Práticas Da História: Journal on Theory, Historiography and Uses of the Past*, 15, 2023.

"Formation of Diaspora Network and Reconstruction of Collective Memory: The Case of Indo-Fijians," *Risks, Identity and Conflict: Theoretical Perspectives and Case Studies*, Palgrave Macmillan, 2021.